

令和6(2024)年度栃木県普及指導活動外部評価結果

1. 評価

事務所名	芳賀農業振興事務所			
評価対象事例名	地域農業をけん引する担い手の確保育成 (モデル地区における集落営農組織の「連携」「合併」の推進)			
項目	視点	評価		
		A	B	C
取組の背景・ねらい	①現状や問題についての分析は十分か	5	1	0
	②問題点に対し、適切な課題が設定できているか	3	3	0
	③施策に合わせた目標を設定しているか	3	3	0
活動対象・活動の内容	④活動対象の選定は適切か	5	1	0
	⑤課題や活動対象に対し、活動方法は適切か	4	2	0
	⑥市町・JA等関係機関や試験研究機関との連携は図られているか	4	2	0
	⑦活動は計画的かつ効率的に実施されているか	3	3	0
	⑧農業者との信頼関係を築き、普及活動を行っているか	4	2	0
活動の成果・今後の対応策	⑨実績に対する要因分析がされているか	1	5	0
	⑩残された課題について検討されているか	1	4	1

(1) 評価項目は、各項目の視点に基づき評価する。

(2) 評価基準は、消費者視点も踏まえた上で、以下の3段階とする。

A: 良好である B: 普通である C: 不良である

(3) 評価における数値は、評価対象事例の各項目に対して、A~Cを評価した外部評価委員数を表している。

2. 評価委員の意見

○複数の集落営農組織の統合、協力は進んでいる点は評価できる。

一方、集落営農の「機能低下」に対してどれくらい成果が出たのかは不明である。

○担い手不足は深刻です。

○各地で生産者の高齢化、後継者不足による産地の維持が危ぶまれる中、貴重な成功のモデルケース。対象となった営農組合員の生の声とともに他の地域にも情報共有して欲しい。

○今後も長期にわたる見守り支援をお願いしたい。

○地域農業を支える集落営農の減少が進み、担い手の確保、収益性が課題となっているなか、組織間連携や統合を推進するということで、個々の経営意欲を持たせるための丁寧な活動ぶりが見られる。

○各組織組合の構成人数や経営規模等を記載するとイメージがわきやすかった。

持続可能な地域農業・地域社会の実現に向け、引き続き関係団体と連携し取り組んでいただきたい。

○集落営農組織の連携や合併は、農村地域でも懸念される少子高齢化の波にどう対応するか喫緊の課題である。そこに目を向けメスを入れる問題意識と実行力は他地域の模範となるだろう。

○当面の現状は維持できても、20～30年先を見据えると心許ない。市貝町の株式会社「こかいの郷」はどのように会社として存続させるのか。「稼げる農業」という観点で具体的な提言が欲しかった。

○「明日へつなぐ」という重点取組事項の動きを感じた。やる気のあるモデル地区での前身も現実的で良かった。

○地域リーダーの生の声を知りたかった。連携協定のリーダーになる方が安心して活動できる対策をお願いしたい。